

ニュースレター **BEYOND** ビヨンド07 Spring & Summer

●発行日 2007年5月20日 ●発行者 西郷純一 ●第18号 ●News Letter for WAJC/JCCCW/WWJM/西郷を支える会

06クリスマス



2006年のクリスマスは、12月24(日)の「クリスマス礼拝」のほかに、●12月15(金)は牧師宅で、コミュニティー・センター「午前の部」の受講者とのクリスマス会(写真左)をもち、30名ほどの方々が参加。また、●12月23日(土)午後6時から、例年のようにダーウッド・アライアンス教会で、教会全体のクリスマス祝会を持ちました。参加者は80名でした。

WAJC・冬～春

07年最大のNews:子どもSS開始!!

●WAJC(ワシントンアライアンス日本語教会)では、遂に1月7日から長い間の祈りであった子どものための日曜礼拝・集会としての「日曜学校」を始めました。●実は、これまで躊躇していた2つの理由がありました:(#1)アメリカでは通常、親が車で送らないと子どもは教会に来れません。日本人のノン・クリスチャンの親御さんにそれを毎週日曜の朝に期待することは難しい。(#2)米国に住む日本人の多くの家庭では、休みであるはずの土曜日が、ほぼ丸一日「日本語補習校」の授業でつぶされるため、親も子ども週に一度、日曜の朝くらいは、ゆっくり休みたと思っています。これらの理由で躊躇していました。しかし、なお

●児童伝道は必須です:

(1)事情の如何にかかわらず、洋の東西と時代を超えて、聖書的・霊的に児童伝道は永遠・普遍の必要であり、神様の至上命令です。(2)「夏期学校」始め、子どもたちを対象とした様々な特別プログラムを通して心を開く子どもたちが、今まで一杯いました。しかし、彼らが継続して神様を求める機会を提供できないままです。



賛美の指導をするカスコ美加姉と三谷真由美姉

●「日曜日」であることの必要:(1)今までも、週日の午後「子供集会」をしていたこともあります。(2)礼拝のメッセージ中に「子ども集会」的なこともして来ましたが、しかし、(3)「聖日」としての日曜朝に、「子ども礼拝」としての集会をすることは、大人同様に大変意義深いことです。また、(4)実際的にも、参加者として「来る」側にも、日曜日の朝は、(上述したこと一見矛盾するようですが)一旦「その気になれば」、一番時間を作り出し易いときでもあり、教会の「奉仕者」側からも、一番奉仕者が結集できるときです。●励まし:そんな中で、今回遂に踏み出すに至った大きなきっかけは、WAJCメンバー、カスコ美加姉の強い願いと積極的な励ましでした。同姉はクリスチャン・ホームで育ち、その幼い日から心に植えつけられた御言葉の種の尊さを体験から知っておられたからです。●覚悟と決断:このような状況の中、子どもたちの参加数が、たとい1-2名であっても、或いは、志を同じくして協力する奉仕者が1-2名であっても、「主の御心」と信じて、とにかく07年初頭から始めようと決断したのが、昨年末でした。しかし、・・・



毎週シールを楽しみにする子どもたち

●主の豊かな祝福:(1)蓋を開けると初回から子どもの参加者が10名。徐々に増えて、これまでほぼ4ヶ月、平均17-19名の子どもたちが毎週集っています。(2)これらの子どもたちの内、3~4家族は両親が、普段、教会(礼拝)に来ていない家族です。その親御さんたちが、毎週子どもを連れて「日曜学校」に来られ、そのまま一緒に集会に参加しています(狭いので、他にいく場所も無く、終わりまで集会場で待っておられるからです)。また、(3)奉仕者も初回から

7名与えられ、月一回の「教師会」にも毎回5-6名が参加。この他にも「教師・助手」としてでなく、日曜日「現場」だけの事務奉仕者もいます。ハレルヤ。続いてお祈りください。

海外宣教週間

今年も「海外宣教強調週間」に、2組の宣教師の先生方をお迎えしました。まず、●1/30(木)木曜礼拝・聖書の学び会に Dori 先生を迎えました。同師は、ご主人と共に24年間台湾で働かれた後、今は、アジアのある国で「特命」を受けて宣教師たちの訓練のために働いておられます。また、●翌日1/31(金)の婦人祈禱会には、Beth & Rick Drummond 先生ご夫妻をお迎えしました。Beth 夫人はベトナムへの宣教師の子供として生まれ、自らも Rick 先生と結婚して宣教師として同地に。直後に、父上が北ベトナム軍の手によって殺害されると言う不幸を乗り越え、後に強制退去を求められるまで合計17年ベトナムで働かれました。第2の任地であったインドネシアでも、ビザの更新を拒否されるまで10数年間ご奉仕。その後、カンボジアへ派遣され、後に同国内のベトナム難民への奉仕に任命され現在に至っております。実に計40年間に亘る海外宣教生活。今尚カンボジアでのベトナム難民への奉仕に燃えておられます。正に、主の栄光です。●2月4日の日曜礼拝には、Beth 夫人が再度おいでくださり、極貧の難民生活ゆえに親に売られ、売春婦となりエイズに蝕まれて行く悲劇の中で、「永遠の救い」を手にする若い女性たちの証しを中心にメッセージを頂きました。<上右写真:礼拝後、牧師宅で昼食会の後にベス先生(前列右から2番目)と共に>



イースター礼拝と祝会



集会を指導する西郷と三谷真由美姉



元気に賛美する子どもたち

●今年のイースター礼拝では、日曜学校の子どもたちが低・高学年に分かれて「賛美」の奉仕をしました。また、9月からミズリー州の大学院で学ぶ予定で、現在ワシントンで英語の勉強をしている佐藤美帆姉が、フルートで特別賛美のご奉仕。出席者は57名でした。●午後から、牧師宅でもたれたイースター祝会は、ポットラック・ランチで始まり、食事を介しての交わりの後、短い賛美とメッセージのとき(西郷は、この後すぐに、後述する「DC桜祭り」に参加するために、他の兄弟姉妹とかおる師に残りのプログラムを話し中座)を持ちました。●その後、子どもたちは、待望のゲームとエッグ・ハンティングを心ゆくばかり楽しんだとのこと。



<神山兄、有元夫人の指導でゲームを楽しむ>

参加者は64名でした。普段礼拝に来ていない日曜学校関係の方々、コミュニティー・センター関係の方々、これからも続いて福音を求め、教会の様々な集会に来られるようにお祈りください。

桜祭りへの参加

●今年も「ワシントンの桜祭り」で行われた2つの催しのために協力のお招きを受け、4月8日(日)午後の「灯籠点火式」と13日(金)夜にもたれた「桜の女王」を選ぶ「晩餐会」で、いずれも開会の祝福祈禱を日・英語の両方でさせて頂きました。●今年、「灯籠点火式」がイースターの日の午後になり、上述したWAJC主催の「イースター祝会」と時間的に重なってしまったので少し躊躇



大使夫妻、内務省長官等と共に



大使(左端)、尾崎行雄氏令嬢等と共に

しましたが、(1)伝道の観点から「長い目」で見て、地域への浸透と影響に貢献する布石と考え、また、(2)牧会の観点からも、教会活動を、もっと兄弟姉妹にお委ねする良い機会であると確信し、今年も参加させて頂きました。●元々「DC 桜祭り」とは、宗教的催しでもなく、日米「政府」も多少なり関わっている、いわゆる「市民」行事であり、しかも、価値観が多様化し、一つの宗教に偏ることを極端に嫌う現代社会において、いくら米国だとは言え、なぜ「キリスト教の牧師」だけが呼ばれ、わざわざ「Invocation」(祈禱・嘆願)をするのか、これまでも不思議な気がしていましたが・・・●「道が閉ざされるまでは」と、単に形式的な祈禱でなく、「ワシントンの桜」に因みつつも、福音的なメッセージを含んだ祈りをこれまで数年間心がけてきました。「こんなに長かったら・・・」「こんな風に祈ったら・・・」「他の宗教や無宗教の人の気分を害し、もう頼まれないかもしれない」という覚悟をもってご用をさせていただきました。●今年も「灯籠点火式」は、「ジェファーソン・メモリアル・ホール」をその一面に擁し、桜がその周囲一面に植えられている「タイダル・ベースン」と呼ばれる池のほとりでもたれました。当日は、前述のように、おりしもイースターでしたので、私たちに永遠のいのちへの希望を与える主の復活と春のいのちの希望を与える桜のイメージとを重ねて祈りました(日英両語で繰り返す形になるので、どうしてもかなり長くなってしましますが、その間、全員立ったままです)。●そこには、日本を代表して日本大使夫妻、米国を代表して内務省長官(内務大臣?)が並び、挨拶のことは述べられました。今年は、特に 95 年前にワシントンに桜を捧げた「立役者」であり、当時の東京市長であられた故尾崎行雄氏の、当時満 2 ヶ月、今年 95 歳になられた「お嬢様」が日本から参加し、挨拶をされました。●一方、ワシントンDCの某ホテルのボール・ルームでもたれた「桜の女王」を選ぶ晩餐会では、尾崎氏が 95 年前に日米両国の友好のために



日本代表「桜の女王」と共に

になされた行為を、口先の言葉や思いを越えて、十字架において実行・実践された主の愛と重ね合わせて祈らせて頂きました。●ここには、日本大使館を代表して特別公使、また、米国諸州、及び他の



数カ国からの代表として選ばれた計 50 余名の桜の Princess たちとその家族が、日本の様々な企業関係者も含めた他の数百人の一般ゲストに加えて参列されました。●この「晩餐会」でも、新しい方々との出会いが与えられましたが、図らずも、昨年カリフォルニアに移られた須磨美保婦が、以前からお祈りしておられた古くからの親友との出会いが与えられたことは、ことのほか感謝でした。●いずれの催しでも、何名かの方々から「祈り」に対する「感謝」の言葉を頂きましたが、どうか「祈り」を通して参会者の心の中に蒔かれた福音の種の結実のために続いてお祈りください。(上左の写真は、ジェファーソン・メモリアル・ホールと桜の咲くタイダル・ベースン)

JC コミュニティーセンターの冬～春 冬の学期

●登録者:例年冬は、寒い気候が、「交通」「健康」に大きな影響と支障を与え、参加者がかなり減ります。しかし、今年は、全体的に「暖冬」であったこともあり、冬の学期としては、60 名を超える比較的多い登録・参加者が与えられ感謝でした。●最近の安定した参加者の確保は、この三年間徐々に積み上げてきた実績と共に(新しい生徒のほとんどが、これまでの生徒の「口コミ」、また長い生徒も多い)、昨年から広報を中心とする事務

にご尽力下さっている久保陽子姉の有能かつ熱心なご奉仕に負うところが多いと言えます。●私たち夫婦が訪日で不在であった 2 月末からの約 4 週間弱、WAJC のメンバー、また、JCCCW のクラス担当の「先生方」、「生徒」さんたち自身も、「チャイルド・ケア」(写真下)を含めたプログラムが、通常通り運営で



きるように多大なご尽力下さいました。●昨年の秋から英会話クラスの「先生」として加わってくださったマーガレット・パターソン氏は、ご健康の理由で冬の学期をもってご奉仕を退かれました。

同姉は、近隣(バージニア州北部)の教会で 10 数年にわたって英会話クラスを指導して来られましたが、ある方のご紹介で私どもを助けて下さっていました。実は、お会いしてから分かったのですが、同姉は、帰国された増田玲子姉の英語の先生で、玲子姉の救いのために祈り、洗礼式でもお会いしていました。主にある不思議なつながりを覚えます。●Mom & Tots クラス:今まで英会話を 2 クラス担当しておられた有元泉さんが、内 1 クラスに換えて「母と子(1 才半～3 才)の遊びながら学ぶ英会話」のクラス(月 2 回)を 1 月からスタートして下さいました。

春の学期

●諸般の事情により昨年秋までと比べて英会話クラスが 2 クラス減り、講師の急な帰国により韓国語クラスも閉鎖と言う状況の中での新学期開始でしたが、●冬の学期が終わる前に登録を開始するなどの久保姉(上述)の努力もあり、クラス数減少にもかかわらずほぼ前年同様、もしくは、それ以上の参加者を確保でき、順調な滑り出しをすることができました。

ヤードセール

●去る 4 月 21 日(土)に基金援助のための春のヤードセールを実施。●今回も小さな教会で人手不足の中、皆が一生懸命協力。●集った「品物」がいつもより少なかったこともあり、売り上げは、前年を少し下回りましたが、●このセールのもう一つの目的である「よき出会い」も一杯与えられ感謝しています。

契約延長

●私たちは 2000 年秋、ダーウッド・アライアンス教会の一部を特定の時間、無料でお借りする形でスタートしましたが、当初より、地域日本人の住居分布から言うと、少し「位置」が北過ぎると言う意見が、周囲の日本人の間からも、教区指導者からも寄せられていました。●そもそも、最初のビジョンとしても、もっと「南」を希望していた私たちは、4 年後、遂に上記の地を後にして、現在の「店舗」スペースを借りました。それは奇しくも、2000 年秋にシル・ランダー宣教師と共に「主よ。御心なら、この場所を」と祈った店舗スペースそのものでした。●改装等の準備を経て、「ジャパニーズ・クリスチャン・コミュニティ・センター」として動きを開始したのが 2004 年 9 月。同時に、WAJC もセンターと同居の形で移動。●この場所は、10 数軒の店舗を擁する小さなショッピング・センターですが、その中に私たちも含めて 5 つもの日本人のビジネス(食糧品店、旅行代理店、書店、軽食屋)が



<チャペル風景:毎週 60 名以上に福音を語る> あります。このことが、地域日本人に「知られる」と言う点でも、日本人が「利用し易い」と言う点でも大きなメリットとなっています。●ただ、そのために「家賃」が比較的高額であると言うデメリットも覚悟しなければなりません。●今、3 年を経て「ようやく」コミュニティに知られ、地域の方々に馴染んで頂き始めたところで、ちょうど賃貸契約更新期を迎えました(通常 5 年なのですが、あえて 3 年でお願ひしてありました)。●ここで、このままこの「地の利」に優れた現在の地に留まり、果敢に更なる発展を目指すべきか、「経費」を考え、ある種の「不利」を覚悟してでも、もう少し安価な場所に、とりあえずの「安定」を求めて移るべきか、・・・、その他、様々に意見が交わされる中、「主の御心」を求めた祈り深い決断を求められています。●今回の契約更新(4 月)では、とりあえず一年の契約延長をしました。●遅くも今年末までには、これからの中・長期的な目標とビジョンを確立し、具体案と信仰をもって次の段階へと向かって行かねばなりません。お祈りください。

07春の訪日レポート

今回は、かおる師としのぶとの三人の旅であった。●2/26(月)ワシントン発。●2/27(火)午後4時前に成田着。竹内夫妻にお迎え頂いて同家へ。●2/28(水)昼ごろ、病氣と闘うアンディーと彼を支えつつ二人のお子さんを育てるベッグズ恵子さんを東京清瀬に訪ねる。夕方、東京保谷に竹内夫妻の次女真理子姉(カスコー美加姉の妹)宅を同ご夫妻と共に訪ねる ●

3/1(木)午前、埼玉県入曽の狭山宣教会(小坂嘉嗣牧師)の婦人祈禱会で御用。昼食時にワシントンでの働きの紹介。午後、羽田空港から札幌へ。同空港に大塚兄と水葉ちゃんの出迎えを受ける。その夜、生まれたばかり

の堅くん、大塚兄のご両親を加えて大塚一家とのお交わり。その晩から札幌西福音教会の会員小久保家でお世話になる ●3/2(金)午前中は、同教会メンバーの古川姉の長男と面談。午後、同教会牧師相馬師ご夫妻との交わり。夜、小久保姉との交わり。●3/3(土)午後、「良い家庭を作るためには」と言うセミナー形式の集会(左上写真)で御用。家内も証しする。集会後、ワシントンの働きの紹介。夕方、東野家との交わり。夜は再び相馬師のご家族との交わり。●

3/4(日)、札幌西福音教会で礼拝のご用(2回)。昼食と交わりの後、同教会のメンバー服部ご夫妻が苫小牧の港まで車で送ってくださり、途中支笏湖の観光。午後7時同港発の夜のフェリーで仙台に向かう。●3/5(月)同フェリーで午前9時仙台港着。バスで仙台駅に。更に新幹線で栃木県小山駅へ。井川夫妻に迎えられ、佐野にある井川夫妻の経営するノア外語学院へ。同学院で現在検討中のワシントンへのランチ・アウトのために熊倉氏と面会。夜は、井川夫妻および他の同学院スタッフたちとの夕食。●3/6(火)翌朝、井川夫妻と上述ワシントン進出・私たちのミニストリーとの関係・ビジョン等を語り、祈り合う。昼少し前に佐野を発って、仙台の北、栗駒高原へ。旧友菅原姉の出迎え。そのままノ関温泉へお連れ頂き、宿屋で一泊の交わり。●3/7(水)翌朝早くに宿を出て、菅原姉と共にイムマヌエル教団仙台教会(田中敬康牧師)の婦人祈禱会へ。毎週30名ほどの婦人が集ると言うこの集会で、見るからに、「祈り会」を中心に生活を組み立てて来た「年輪」を感じさせる、クリスチャン

婦人たちの姿に大いに励まされた。かおる師の証し、ワシントンでの働きの紹介、聖言のご用をさせて頂き、昼過ぎに新幹線で静岡へ。同駅で静岡サミル教会のリー先生ご夫妻と副牧師のようにして手伝っておられる川崎先生の奥様のお出迎えを受け、夕食を頂いた後、同教会の祈禱会へ。私たちの働きの紹介と御言葉のご用をさせて頂く。交わりの後、夜遅くに車でお迎え頂き清水市の門田家へ。門田夫人はWAJCの高力姉の妹さん。門田ご夫妻の暖かい歓迎に感謝。●3/8(木)早朝、同家を後に静岡駅経由で東京へ。朝10時からの同盟中野教会(石川弘司牧師)の付属幼稚園で、お母様方対象の特別伝道会に昨秋に引き続いて伺いご用する。集会後同教会のメンバー厚見夫妻との昼食の交わりの後、御茶ノ水クリスチャン・センターへ。昨年太平洋

放送での働きを辞され、ワールドビジョンの日本代表になられた榊原寛先生との久しぶりの再会。僭越な言い方であるが、旧交を温めさせて頂き感謝。因らずもそこで日本宣教会教職としての先輩世良田湧待先生ともお会いでき感謝。又、短い時間であったが、同センターで英会話ミニストリーをしている霜朋子姉とも久しぶりにお会いできた。その夕、日本宣教会・前橋宣教会(群馬)を訪ね、祈禱会に参加。ここでもワシントンでの働きの紹介をさせて頂く。●3/9(金)朝、同教会の住谷孝子先生との交わりの後東京へ。新宿でプリンスン時代の受洗者杉浦(旧姓神前)元子姉と再会。彼女は昨年結婚された後、大きな事故に遭われるなどの試練を通られたが、元気そうなお

姿に感謝。その夜は、再び竹内夫妻のお宅にお世話になる。

●3/10(土)朝、渋谷表参道へ。姪(姉の次女)の結婚式に出席。姉は、主人を比較的早くに天に送った後、二人の娘を大学に送り、3年前には長女を嫁がせ、そして今回次女を。亡くなった主人の姉夫妻も兵庫から出席。その主人の姉が、「喜美子(姉の名前)さん、よくやったね!!」と、姉の労をねぎらった言葉を個人的にかけているのを耳にした時、長い試練の中、姉を支えた主に感謝すると共に、この姉の弟として何とも言えない誇りをさえ感じ、姉に心からのエールを送った。式後、世田谷の姉の家に合流。暫くの交わりの後、千葉県成田に住まわれるNY時代のメンバー酒井家へ。長男の太郎くんも帰省(?)中。現在中国に留学中の長女芳乃さんを除き、おじいさまも含めて家族7人と再会。●3/11(日)朝、同家出席されるアライアンス成田福音教会(青松牧師)で礼拝のご用をさせて頂く。昼食の交わりの後、酒井家と一緒に東京新宿そばにある淀橋教会(峯野龍弘

牧師)でもたれた「リユニオン」集会へ。プリンスン時代の旧メンバー、関係者との再会。集会後、母教会である久我山宣教会時代の友人遠藤賢一夫妻と会食をしな

がらのお交わり。夜遅く、同夫妻の車で福生の竹内兄姉のお宅まで送って頂く。●3/12(月)早朝、姉とその長女の家族と共に、調布の墓地に2年前に天に帰った母の納骨をする(かおる師は、その前日からの体調不良が更に悪化し、やむなく午前中は休む)。姉たちと共に母の生涯を主に感謝し、墓前でささやかな式をもつ。昼過ぎに調布を出て、羽田空港でかおる師・しのぶと合流し、熊本へ。同空港で光岡史人兄の父上のお出迎えを頂く。夕方、同家で仕事から帰ってきた史人兄、またご家族との交わり。せっかくのおもてなしにも、かおる師は、同家に着いてそのまま床に伏せる。●3/13(火)翌日は、早朝プリンスン時代、開拓を手伝ってくださった末藤優子姉との交わり。この日、光岡史人兄と父上は丸一日お休みを取って、阿蘇山噴火口を中心に観光案内をしてくださる(残念ながら、かおる師は38度を越える熱で参加できず)。夕方に同家に戻り、大分回復したかおる師も参加してご家族との交わり。夜、史人兄と短い時間ではあったが個人的に聖書と祈りの時間を持つ。●3/14(水)朝、光岡家を後に、父上の案内で回復したかおる師も一緒に熊本城見学。昼に熊本駅から博多へ。バプテスト連盟の福岡インターナショナル・チャーチの木村公一牧師、同教会で現在役員の一員として奉仕しておられるNY時代の受洗者堀奈穂美姉と夕食を共にした後、同教会の祈禱会でのご用(上左の写真。この教会は、現在ワシントンでのご奉仕に協力くださっているケンと美奈シートさんのお父様リーロイ・シート先生(元西南学院大学の院長、WAJCの礼拝において頂いたこともある)が始められた教会である。その晩は、木村師のお宅でお世話になり、素晴らしい交わりのときが与えられる。●3/15(木)朝、博多を発って、広島へ。昼にプリンスン日本語教会の牧師栗栖信之師のご両親にお会いし、昼食後、栗栖夫人とご一緒にNY時代の受洗者加藤(田上)稚佳子姉とお子さん、お母様を訪ねる。午後遅く、広島を発って神戸のコール夫妻のお宅へ。新神戸駅にケンドラ・コール姉の出迎えを受ける。ジョナサンも帰宅して夕食と交わり。●3/16(金)コール夫妻の計らいで、彼らと交わりのある神戸ユニオン・チャーチ(日本で現存するプロテスタント教会で最も古い教会とのこと)の牧師マーク・オルモス師と昼



<久しぶりに杉浦(神前)元子姉と> <姪の結婚式。新郎新婦と新婦側親族>

●3/10(土)朝、渋谷表参道へ。姪(姉の次女)の結婚式に出席。姉は、主人を比較的早くに天に送った後、二人の娘を大学に送り、3年前には長女を嫁がせ、そして今回次女を。亡くなった主人の姉夫妻も兵庫から出席。その主人の姉が、「喜美子(姉の名前)さん、よくやったね!!」と、姉の労をねぎらった言葉を個人的にかけているのを耳にした時、長い試練の中、姉を支えた主に感謝すると共に、この姉の弟として何とも言えない誇りをさえ感じ、姉に心からのエールを送った。式後、世田谷の姉の家に合流。暫くの交わりの後、千葉県成田に住まわれるNY時代のメンバー酒井家へ。長男の太郎くんも帰省(?)中。現在中国に留学中の長女芳乃さんを除き、おじいさまも含めて家族7人と再会。●3/11(日)朝、同家出席されるアライアンス成田福音教会(青松牧師)で礼拝のご用をさせて頂く。昼食の交わりの後、酒井家と一緒に東京新宿そばにある淀橋教会(峯野龍弘

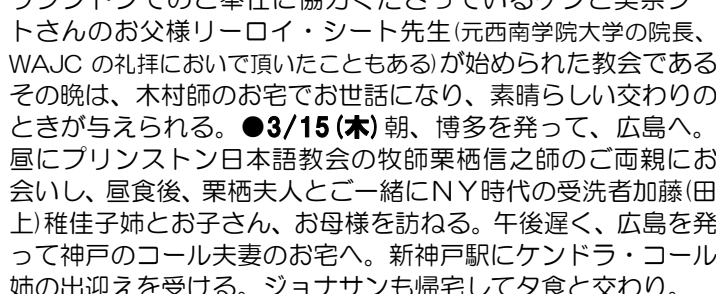


<福岡インターナショナルチャーチの兄姉と>

牧師)でもたれた「リユニオン」集会へ。プリンスン時代の旧メンバー、関係者との再会。集会後、母教会である久我山宣教会時代の友人遠藤賢一夫妻と会食をしな

がらのお交わり。夜遅く、同夫妻の車で福生の竹内兄姉のお宅まで送って頂く。●3/12(月)早朝、姉とその長女の家族と共に、調布の墓地に2年前に天に帰った母の納骨をする(かおる師は、その前日からの体調不良が更に悪化し、やむなく午前中は休む)。姉たちと共に母の生涯を主に感謝し、墓前でささやかな式をもつ。昼過ぎに調布を出て、羽田空港でかおる師・しのぶと合流し、熊本へ。同空港で光岡史人兄の父上のお出迎えを頂く。夕方、同家で仕事から帰ってきた史人兄、またご家族との交わり。せっかくのおもてなしにも、かおる師は、同家に着いてそのまま床に伏せる。●3/13(火)翌日は、早朝プリンスン時代、開拓を手伝ってくださった末藤優子姉との交わり。この日、光岡史人兄と父上は丸一日お休みを取って、阿蘇山噴火口を中心に観光案内をしてくださる(残念ながら、かおる師は38度を越える熱で参加できず)。夕方に同家に戻り、大分回復したかおる師も参加してご家族との交わり。夜、史人兄と短い時間ではあったが個人的に聖書と祈りの時間を持つ。●3/14(水)朝、光岡家を後に、父上の案内で回復したかおる師も一緒に熊本城見学。昼に熊本駅から博多へ。バプテスト連盟の福岡インターナショナル・チャーチの木村公一牧師、同教会で現在役員の一員として奉仕しておられるNY時代の受洗者堀奈穂美姉と夕食を共にした後、同教会の祈禱会でのご用(上左の写真。この教会は、現在ワシントンでのご奉仕に協力くださっているケンと美奈シートさんのお父様リーロイ・シート先生(元西南学院大学の院長、WAJCの礼拝において頂いたこともある)が始められた教会である。その晩は、木村師のお宅でお世話になり、素晴らしい交わりのときが与えられる。●3/15(木)朝、博多を発って、広島へ。昼にプリンスン日本語教会の牧師栗栖信之師のご両親にお会いし、昼食後、栗栖夫人とご一緒にNY時代の受洗者加藤(田上)稚佳子姉とお子さん、お母様を訪ねる。午後遅く、広島を発って神戸のコール夫妻のお宅へ。新神戸駅にケンドラ・コール姉の出迎えを受ける。ジョナサンも帰宅して夕食と交わり。●3/16(金)コール夫妻の計らいで、彼らと交わりのある神戸ユニオン・チャーチ(日本で現存するプロテスタント教会で最も古い教会とのこと)の牧師マーク・オルモス師と昼

●3/15(木)朝、博多を発って、広島へ。昼にプリンスン日本語教会の牧師栗栖信之師のご両親にお会いし、昼食後、栗栖夫人とご一緒にNY時代の受洗者加藤(田上)稚佳子姉とお子さん、お母様を訪ねる。午後遅く、広島を発って神戸のコール夫妻のお宅へ。新神戸駅にケンドラ・コール姉の出迎えを受ける。ジョナサンも帰宅して夕食と交わり。●3/16(金)コール夫妻の計らいで、彼らと交わりのある神戸ユニオン・チャーチ(日本で現存するプロテスタント教会で最も古い教会とのこと)の牧師マーク・オルモス師と昼



M.オルモス師、ケンドラ・コール姉と

●3/16(金)コール夫妻の計らいで、彼らと交わりのある神戸ユニオン・チャーチ(日本で現存するプロテスタント教会で最も古い教会とのこと)の牧師マーク・オルモス師と昼

がらのお交わり。夜遅く、同夫妻の車で福生の竹内兄姉のお宅まで送って頂く。●3/12(月)早朝、姉とその長女の家族と共に、調布の墓地に2年前に天に帰った母の納骨をする(かおる師は、その前日からの体調不良が更に悪化し、やむなく午前中は休む)。姉たちと共に母の生涯を主に感謝し、墓前でささやかな式をもつ。昼過ぎに調布を出て、羽田空港でかおる師・しのぶと合流し、熊本へ。同空港で光岡史人兄の父上のお出迎えを頂く。夕方、同家で仕事から帰ってきた史人兄、またご家族との交わり。せっかくのおもてなしにも、かおる師は、同家に着いてそのまま床に伏せる。●3/13(火)翌日は、早朝プリンスン時代、開拓を手伝ってくださった末藤優子姉との交わり。この日、光岡史人兄と父上は丸一日お休みを取って、阿蘇山噴火口を中心に観光案内をしてくださる(残念ながら、かおる師は38度を越える熱で参加できず)。夕方に同家に戻り、大分回復したかおる師も参加してご家族との交わり。夜、史人兄と短い時間ではあったが個人的に聖書と祈りの時間を持つ。●3/14(水)朝、光岡家を後に、父上の案内で回復したかおる師も一緒に熊本城見学。昼に熊本駅から博多へ。バプテスト連盟の福岡インターナショナル・チャーチの木村公一牧師、同教会で現在役員の一員として奉仕しておられるNY時代の受洗者堀奈穂美姉と夕食を共にした後、同教会の祈禱会でのご用(上左の写真。この教会は、現在ワシントンでのご奉仕に協力くださっているケンと美奈シートさんのお父様リーロイ・シート先生(元西南学院大学の院長、WAJCの礼拝において頂いたこともある)が始められた教会である。その晩は、木村師のお宅でお世話になり、素晴らしい交わりのときが与えられる。●3/15(木)朝、博多を発って、広島へ。昼にプリンスン日本語教会の牧師栗栖信之師のご両親にお会いし、昼食後、栗栖夫人とご一緒にNY時代の受洗者加藤(田上)稚佳子姉とお子さん、お母様を訪ねる。午後遅く、広島を発って神戸のコール夫妻のお宅へ。新神戸駅にケンドラ・コール姉の出迎えを受ける。ジョナサンも帰宅して夕食と交わり。●3/16(金)コール夫妻の計らいで、彼らと交わりのある神戸ユニオン・チャーチ(日本で現存するプロテスタント教会で最も古い教会とのこと)の牧師マーク・オルモス師と昼



ロブ・フラファティ師と共に

で東京に出張していたジョナサンも帰宅し、共に夕食へ。同家に戻った後、夜中過ぎまでワシントンでのミニストリーの現在・将来について語り合い、祈りあった。●3/17(土) 朝食と交わりの後、新神戸を発って、京都へ。同駅で、ニューライフ・チャーチの豊田信行牧師の出迎えを受け、昼食の後、同師の指導する杉野姉のお宅での家庭集会へ。夕食の後、同教会のメンバー音川・赤松家へ。おりしも同家に来ておられた方々との交わり。特に数名のノンクリスチャンの婦人方に聖書から短いメッセージをお届けする機会も与えられた。かつてコミュニティー・センターの改装期の奉仕に多大なご尽力をくださった京都福音教会の大島和佳子姉も訪ねてくださり夜遅くまでお交わりのときが与えられた。●3/18(日) 朝、私たちの旧友であり、現在は、「アジアをキリストへ」の宣教師、また、京都キリスト福音教会(置田信也牧師)の協力牧師である吉田隆先生のお迎えを頂き、同教会の礼拝で、

聖言の奉仕をさせて頂く。最近同教会に集い始めておられる的場一家とも再会。この日、同家の次女ゆうみちゃんの献児式も礼拝後にもたれた。また、この礼拝



<的場家、Taylor 家、吉田家、置田家、大島姉>

でプリンストン時代の協力者、David Taylor・雅子さん夫妻と子供たちとの本当に久しぶりの再会をも楽しんだ。彼らはわざわざ大阪の枚方市より出てきてくださったのである。同教会での昼食の交わりの後、午後、的場聖明氏が、京都の町を初春の夜、清水寺のライトアップの時間になるまで観光案内して下さった。夜は的場全家と夕食を共にしての交わり。●3/19(月) 早朝、かおる師はホテルを抜け出て、的場弥生姉、登校前のはるかちゃんと御所を散歩して祈りのときを持つ。朝食後、京都を発って、名古屋へ。同駅で光山好美姉・裕くんと交わりと祈りのとき。夕方松本駅へ。旧友貞松守兄にお迎え頂き、同家へ。同じく旧友で、現在はからずも松本に単身赴任しておられる今野弥一兄とも再会。●3/20(火) 午前、貞松兄姉が集ってお



時枝哲也師と共に

れる松本ホーリネス教会に時枝哲也牧師を訪ねる。この教会は敬愛する村上宣道師の奥様の母教会でもあるが、後で分かって、驚いたことは、昨年春、WAJCに集い始めて以来、WAJC、またセンターの事務奉仕のために尽力くださっている前述の久保陽子姉の御祖母様(小松次子姉)の母教会でもあられるとのこと。くすしい摂理に御名を崇めた。昼前に松本を発って、木曾福島のかおる師の実家に独り暮らしの義母を訪ねる。着いてすぐに車で義母と共に、クリスチャンであったかおる師の叔母の墓参りに出かけた。真新しい墓の後方に勇壮とそびえる木曾駒高原の自然の美しさにしばし見とれ、創造主を崇め賛美した。帰って来てから近所に住む、かおる師の知人たちを訪ね、夜は義母と暫しの交わりを楽しんだ。●3/21(水) 午前、午後と引き続き近所の探索と母との交わり。午後遅くに、余りに短い交わりに「後ろ髪を引かれる」思いで、母に別れを告げる家内の心情を察しつつ、翌日のスケジュールに間に合うように木曾を立てて東京へ。夜遅くだったが、世田谷の姉の家へ。

みなさまのご支援を心から感謝します!!

「西郷純一・かおるを支える会」サポート

- 日本からのご支援：(銀行)UFJ川越支店 (名義)西郷純一かおる師の会 (口座)普通 3818778
- 日本国内の連絡先：馬場(〒350-1113 埼玉県川越市馬場 17-47) ●同電話・ファックス：(0492)41-7048
- 米国：西郷純一・かおる(13008 N. Commons Way, Potomac, MD 20854) ●Tel/Fax: 240-314-0249 ●EM: saigo@wajc.org / junsai@comcast.net

WAJC への日本からのサポート

- 銀行：三井住友銀行銀座支店(O26)
- 口座：ワシントン・アライアンス日本語教会・普通・7591975
- WAJCのHP：<http://www.wajc.org>
- 日本の連絡先：竹内祥隆 電話：042-555-3261
- 同住所：〒205-0022 東京都羽村市双葉町 2-16-27

●3/22(木) 朝 7時に姉の家を出て小田原へ。同駅で野木朗師の出迎えを頂いて、同師の牧会される南足柄キリスト教会へ。午前10時半からの婦人祈祷会での御用。昼食後の集会でかおる師が証しのご奉仕(その間、しのぶは、同教会の親切な若いメンバーの計らいで最後のショッピングに)。夕餐の後、午後7時から職場より戻られた男性方も加えての最後の集会用。集会は9時までであったが、集会後、30名ほどの出席者一人一人がほぼ全員前に出て来られ、一緒にお祈りをさせて頂いた。その間約一時間、背後の会衆は賛美し続けていた。今回の宣教旅行の最後を飾る、何と恵まれた集会であったことか。ハレルヤ。集会を個人的かつ真剣な祈りと賛美をもって締めくくることが何と言う幸か。●3/23(金) 朝、野木師に車で小田原駅まで送って頂き、そこから成田



南足柄キリスト教会で

早速に月例の日曜学校教師会が待っていたが、翌々日の聖日のご用の準備と共にまっとうできたことを感謝する)

まともめ：●今回の宣教旅行では、12の教会を訪問。リユニオンのご用も含めて、16回の御言葉のご奉仕をさせて頂き、集会での出会いを別にして100名以上の方々との個人的な交わりをさせて頂きました。引き続き今後の「結実」のためにお祈り下さい。●今回は、WAJCの多くの兄姉方の過重の負担と犠牲の下でありましたが、家内も共に行くことができ、もっとも多くの皆様とお会いしたかったのですが、思うにまかせず失礼した方々も多くありました。主にあってお赦し下さい。●今回の宣教旅行の中で、最も嬉しかったことの一つは、旅のほぼ初めの頃に、酒井綾乃姉から配信された旧 NY 日本語教会メンバーへ私たちの訪日を知らせたメールを受け取られた山中智義先生から、「ぜひお会いして、・・・」と言うご親切なメールを頂いたことです。先生は、栗栖先生と同様に、プリンストン、NY時代の同労者で、当時は神学生でしたが、今は、大阪、上田を経て、横浜オンノリ教会の牧師として活躍しておられます。今回、残念ながらお互いのスケジュールが合わず、最終的には同師が、わざわざ「成田空港まで参ります」と言うお申し出まで頂いたのですが、前々日同師に、急に韓国出張のご用が教団より入り、それもかないませんでした。次回の再会を楽しみにしています。

その他の報告：家族

●前号の報告から、しのぶのことを心配して祈って下さる方々に感謝します。彼女はケースワーカーと、次の仕事のために色々努力し、インタビューも受けましたが、まだ先のことは決まっていません。しかし、同時に、これまでの職場でそのまま働いており、むしろ働く時間は長くなっています。ただ条件は「良好」とは程遠いものがあります。続いてお祈り下さい。●宣子は、愈々、この5月で大学を卒業します。「学費」も「生活費」も、基本的にアルバイト、ローン、奨学金等によって、自分で賄いました。本人の頑張りや神様の霊的、肉体的、物質的支え、満たしを改めて感謝します。彼女は「美術専攻」ですが、先日「Honor Program Student」の栄誉を頂いて「特別展示会」を終え、21日が卒業式です。卒業後の長期的仕事はまだ決まっていらないようですが、彼女の将来のために続いてお祈り下さい。



宣子(エスター)の作品の前で家族で

コミュニティー・センターのために

- 振り替え口座：「CCP 日本事務所」00100-5-277547
- 郵便口座：「CCP 日本事務所」10060-95110331
- 銀行口座：三井住友銀行福生支店(697) 「CCP 日本事務所」普通 7342907
- 日本事務所(代表：竹内祥隆)〒205-0022 東京都羽村市双葉町 2-16-27
- 電話：042-555-3261 ●HP：<http://www.community.wajc.org>